

# いじめ・体罰問題はないか

## 早期発見に努める



しもむら かつゆき 議員  
下村 勝幸

**問** 黒潮町のいじめや体罰の実態と、それを防ぐ対策にどう取り組んでいるのか。

**答** 坂本 教育長

いじめについては、認知件数のとらえ方を変えたことにより、平成22年度より大きく増加している。これは早期発見、早期対応に努めるためのものであり、子どもたちにも、道徳や人権教育を通じて指導している。素直な心の動きが知れる「気持ちポスト」などの取組は、校長会でも検討し全

町的に広げて行く方向で取り組んでいく。

体罰については諸条件を客観的にみて判断する。アンケート調査により町内の小学校で3件、中学校で1件を認めた。いじめや体罰については職員全体で取り組める体制を整え、今後も早期発見、早期対応に努めていく。

## 震災対策

避難誘導看板の設置は28年度を目的に進める

**問** 町内外の訪問者を避難させるための避難道や、避難場所への誘導看板の設置は。

**答** 松本 情報防災課長

今年度137カ所の避難誘導標識をその入口付近に設置

する。平成28年度には町内を総合的にデザインした誘導看板が設置できるようなイメージで進める。国道の浸水予想場所への標識は国交省へ、更に、中山間地域の浸水予想区域の標識についても関係部署へ要望をしていく。

**問** 浸水予想区域の高台移転計画、及び設備投資への特別な手立てはないか。

**答** 松本 情報防災課長

地元住民の意向を踏まえ、住民要望のあるところから、平成29年度をめぐりに慎重に進めていく。設備投資への具体的手立ては無いが、震災前過疎にならないような対策を十分に検討していく。

## 道の駅

思いを汲んだ設計か  
可能な限り汲んでいる

**問** 佐賀道の駅で予定される運営事業者の思いが生かされた設計になっているのか。

また、運営事業者が後追いで費用負担をしないように、十分に考えられた設計になっているのか。

**答** 森田 建設課長

ワーキング委員会での意見や要望を、可能な限り汲んだ設計になっている。カツオの漁師町をイメージし、運営コストを下げるために様々な検討をしてきたが、ビオスの諸課題も踏まえて検討している。

**問** ビオスや近隣商店との間に、相互連携協力を築けるように、町としても積極的に支援していく考えはあるか。

**答** 森田 建設課長

それぞれの道の駅や一番館等が十分に連携できるように、町内の事業者と協議をしながら各施設への誘導を図っていききたい。運営は設立準備委員会の4団体を始め、他の事業者を交えて行っていく予定。



建設を待つさがみちの駅